

JAバンク新潟における地域密着型金融の取組状況（平成30年度）

JAバンク新潟（県下23JAと新潟県信用農業協同組合連合会）では、農業と地域社会に貢献するため、「JAバンク新潟中期戦略（平成28～30年度）」に基づき、地域密着型金融の推進に取り組んでおります。

平成30年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめましたので、ご報告いたします。

《目次》

1 農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援	・・・・・・・・P2
2 担い手の経営のライフサイクルに応じた支援	・・・・・・・・P4
3 経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に 適した資金供給手法の提供	・・・・・・・・P8
4 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等 地域育成への貢献	・・・・・・・・P9

1 農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

J Aバンク新潟は、地域における農業者との結び付きを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

(1) 農業融資商品の適切な提供・開発

J Aバンク新潟は、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

平成31年3月末時点のJ Aバンク新潟の農業関係資金残高^(注1)は71,811百万円(うち農業経営向け貸付金39,192百万円)、日本政策金融公庫等の受託貸付金^(注2)残高は18,092百万円を取り扱っています。

(注1) 農業関係資金とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に関する事業に必要な資金等が該当します。

(注2) J Aバンク新潟が農業者の窓口となり、日本政策金融公庫などの貸付金の受託取扱いを行っています。

【営農類型別農業資金残高】 (単位：百万円)

種類	平成31年3月末現在
農業	39,192
穀作	20,058
野菜・園芸	2,573
果樹・樹園農業	979
工芸作物	128
養豚・肉牛・酪農	1,478
養鶏・鶏卵	241
養蚕	—
その他農業	13,732
農業関連団体等	32,618
合計	71,811

(注)

- 1 「その他農業」には、複合経営で業種が明確に位置づけられない者および農業サービス業が含まれています。
- 2 「農業関連団体等」には、J Aや全農とその子会社等が含まれています。

【資金種類別農業資金残高】 (単位：百万円)

種類	平成31年3月末現在
プロパー農業資金	59,007
農業制度資金	12,804
農業近代化資金	5,737
その他制度資金	7,066
合計	71,811

(注)

- 1 「プロパー農業資金」とは、J Aバンク原資の資金を融資しているものをいいます。
- 2 「農業制度資金」は、①地方公共団体もしくは日本政策金融公庫の資金をJ Aバンク新潟が転貸で融資するもの、②地方公共団体等が利子補給等を行うことでJ Aバンク新潟が低利で融資するものを対象としています。
- 3 「その他制度資金」には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

【農業資金の受託貸付金残高】 (単位：百万円)

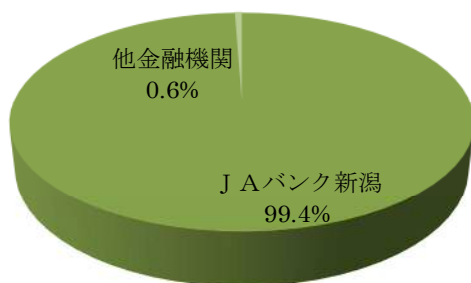
種 類	平成31年3月末現在
日本政策金融公庫資金	18,092
その他	—
合 計	18,092

(注) J Aバンク新潟では、主に J A を窓口として、日本政策金融公庫資金の受託貸付金を取り扱っています。

J Aバンク新潟は主要な農業関係の制度資金である、農業近代化資金の取扱いにおいてトップシェアとなっています。

【新潟県の農業近代化資金の取扱いシェア】

(平成 30 年 12 月末時点)



農業近代化資金(平成 30 年 12 月末時点)
 ・ J Aバンク新潟 残高 5,171 百万円
 ・ 新潟県内 総貸付残高 5,201 百万円
 [出所：新潟県農林水産部経営普及課]

(2) 担い手のニーズに応えるための取組み

J Aバンク新潟では、地域の農業者のニーズに応えるため、様々な取組みを行っています。

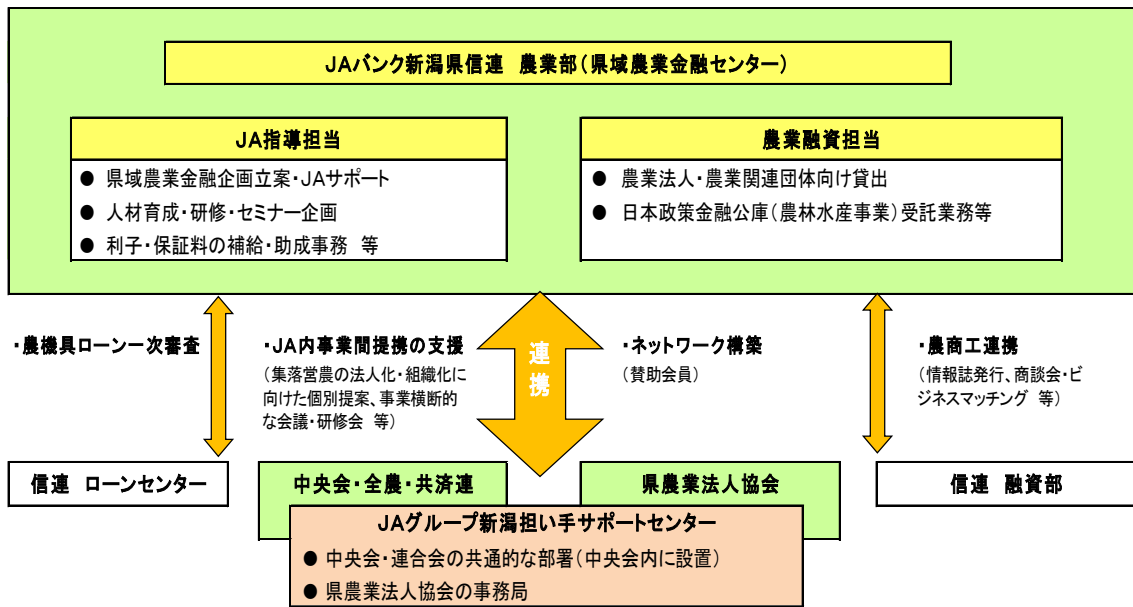
信連では、農業部を「県域農業金融センター」と位置づけ、J Aの指導・サポート機能と農業法人等への融資相談機能を併せ持つことで、一元的な取組みを進めています。J Aの体制整備や人材育成を支援するとともに、J Aと連携した協調融資などにも取り組んでいます。

県下 23 J Aでは、担い手への訪問・資金提案活動を中核的に担う「農業融資相談員」を J A本支店(所)に 193 名配置し、また、農業融資の実務を統括する「担い手金融リーダー」を 37 名配置しています。

農業融資相談員等の相談対応力向上を目的に、J Aバンク独自の農業融資資格制度である「J Aバンク農業金融プランナー」の資格取得を進めており、県下合計で 471 名が取得しています。また、日本政策金融公庫が実施主体となる「農業経営アドバイザー研修・試験」にも取り組み、県下合計で 87 名が合格しています。

また、J Aが総合力を発揮し農業者の多様なニーズに応えていくため、信連を含めた中央会・連合会の共通的な部署である「J Aグループ新潟担い手支援室(略称：担い手サポートセンター)」が中心となり、集落営農の法人化・組織化に向けた個別提案や、事業横断的な会議・研修会の開催等を通じ、J A内事業間連携の強化を支援しています。

担い手支援にかかる体制図



2 担い手の経営のライフサイクルに応じた支援

JAバンク新潟は、担い手をサポートするため、ライフサイクルに応じて、次の取り組みを行っています。

(1) 「にいがた農業応援ファンド」による助成

JA自己改革で掲げる3つの基本目標(農業者の所得増大・農業生産の拡大・地域の活性化)を具体的に実現していくため、平成28年度から平成30年度の3年間に於ける担い手への支援パッケージとして「にいがた農業応援プログラム」を展開しました。

中でも、「にいがた農業応援ファンド」について、平成30年度は、担い手への支援を更に強化するため、「加工・流通・販売の促進応援事業」および『JAグループ新潟 営農・経済改革プラン』推進事業の助成枠を増額しました。また、新規事業として、国内外の商談会等を通じ、農産物の販路拡大に取り組む農業者を支援するため、「商談会等販路拡大の活動支援事業」を創設しました。



にいがた応援ファンドを活用して導入した農機具

【にいがた農業応援ファンド取扱実績(平成30年度)】

(単位: 件、百万円)

事業名	平成30年度			
	申請件数	申請額	採択件数	採択額
加工・流通・販売の促進応援事業	58	30	54	28
「JAグループ新潟 営農・経済改革プラン」推進事業	333	183	274	147
親元就農応援事業	71	21	69	20
商談会等販路拡大の活動支援事業	37	6	37	6
合計	499	242	434	203

(2) 次世代農業者の育成支援

J Aバンク新潟では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、「青年等就農資金」および「新潟県新規参入者経営安定資金」を取り扱っているほか、独立新規就農者や研修受入先を対象とした「J Aバンク新規就農応援事業」や、J Aバンク新潟独自の「親元就農応援事業」を展開しています。

【新規就農者をサポートする資金の取扱実績】 (単位：件、百万円)

資金名	平成 30 年度		平成 31 年 3 月末 残高
	実行件数	実行金額	
青年等就農資金	13	83	329
就農支援資金	—	—	28
合 計	13	83	357

(注) 平成 26 年 4 月 1 日付の法改正により、就農支援資金の新規取扱いは終了となり、新たに青年等就農資金が創設されました。

【J Aバンク新規就農応援事業取扱実績】 (単位：件、百万円)

事業名	平成 30 年度	
	助成件数	助成金額
新規就農者営農支援事業	46	9
新規就農研修支援事業	12	4
合 計	58	13

(3) 6次産業化・農商工連携の推進

J Aバンク新潟は、農林水産業の事業力・収益力強化のため、商談会・ビジネスマッチングによる販路拡大支援等の農商工連携に取り組んでおり、「農業者と産業界の架け橋」として多様な機能を発揮しています。



北信越商談会の様子

【商談会の開催】

ビジネスマッチングを通じた農商工連携および6次産業化の推進を目的として、各地域で商談会を開催しました。

新たな取り組みとして、平成 31 年 3 月に信連単独の商談会「農商工連携交流会」を開催しました。

<平成 30 年度 商談会開催状況>

商談会名	開催日	主催者	参加団体数	総来場者数	内容 (成約状況等)
にいがた 食と総合 ビジネス商談会	平成 30 年 5 月 16 日	(株)第四銀行 (株)北越銀行	194 団体	約 2,700 名	取引先 24 先が参加 ※うち、6 先は個別商談 会のみ参加
うまさぎっしり新潟 食の大商談会	平成 30 年 9 月 7 日	NICO・新潟県・新 潟県内金融機関 ほか	110 団体	1,360 名	7 取引先の出展支援
JA・JF グループ 北信越商談会	平成 31 年 1 月 29 日	JA バンク JF マリンバンク	40 団体(セラー) 50 団体(バイヤー)		セラー5 団体、バイヤー 6 団体を招致
平成 30 年度 農商工連携交流会	平成 31 年 3 月 7 日	信連	17 団体(セラー) 10 団体(バイヤー)		信連単独の商談会

【情報誌「S o l e ! にいがた」の発行】

農商工連携を促進する一環として、フリーペーパー形式の情報誌「S o l e (そーれ) ! にいがた」を平成 22 年 7 月に創刊、以来年 4 回発行しています。

この情報誌では、県内の農業や産業に関する幅広い情報の提供により、「農と食」を基軸としたコミュニケーションを通して、農業生産者・J Aグループと地域の企業、さらには広く地域の皆さまとの結び付きを強め、新たなビジネスチャンスを生み出すきっかけづくりを目指しています。

※県内の J A窓口や直売所、道の駅、スーパー等で無料配布しています。
※バックナンバーは信連ホームページでご覧いただけます。



S o l e ! にいがた

(4) 生産者と消費者をつなげる場の設定

J Aバンク新潟は、新潟県生活協同組合連合会、新潟県森林組合連合会、新潟県漁業協同組合連合会、新潟県酪農業協同組合連合会、J A新潟中央会、J A全農にいがた、J A共済連新潟との共催により、「第 20 回協同組合まつり」(平成 30 年 10 月 21 日、新潟市産業振興センター)を開催し、8,430 名の方にご来場いただきました。

会場では、各団体がそれぞれ特色あるブースを出展し、J Aブースにおいては、県内農畜産物試食販売、〇×クイズのほか、キャラクターによる J Aグループの P Rを行い、好評を博しました。



協同組合まつりではちょリスがお出迎え

(5) 講演会・セミナー等の開催

J Aバンク新潟では、農業法人等の経営安定化支援や参加者同士の情報交換、ネットワークづくりの場を提供することなどを目的として、セミナーや個別相談会を開催しています。また、融資のお取引先等を招き講演会やセミナーを開催し、異業種間の交流を促進しています。

【平成 30 年度 講演会・セミナー等開催・参画状況】

講演会・セミナー名	開催日	主催者	対象参加者	参加者数	内容
第31回信連融和会 定例総会講演会	平成30年 7月18日	信連	信連融資 取引先	75社	演題:「維新のリーダーから学ぶ“人を動かし、育てる力”」 講師:歴史作家 河合 敦 氏
商談会等販路拡大に向けた 個別相談会	平成30年8月22日 平成30年11月16日	中央会 (共催/信連)	県下農業法人 等	9法人	商談会への参加に向けて取組みの進め方や商品の販売戦略等についての相談を実施した。
平成30年度 第11回経済・金融セミナー	平成30年 11月13日	信連	信連融資 取引先	63社	演題:「2019年に向けた世界経済と相場展望～G2時代を生き抜く、これが中央銀行の生きる道～」 講師:大和証券(株) 金融市場調査部 チーフマーケットエコノミスト 岩下 真理 氏
第12回農業法人経営者セミナー	平成31年 2月14日	信連	県下農業法人 および J A 等	217名	【第一部】「大規模稲作複合経営の実践と I C T」 【第二部】「経営者の思いをつなぐ事業継承～経営者がやること・後継者がやること～」
事業承継および後継者育成 に向けた個別相談会	平成31年 3月13日	信連	県下農業法人	4法人	1先あたり60分の持ち時間の中で、高齢化・後継者不足による事業継承の不安、持ち株の移動、複数部門への事業承継等についての相談を実施した。

(6) 被災者等への支援

J Aバンク新潟では、各種自然災害の被災者を支援するため、災害対策窓口を設置したほか、災害対策資金の創設や個別融資先の経営状況に応じて償還条件の緩和等に対応しました。

(単位：件、百万円)

取組事例	JA名	内容	件数	貸付実行金額
平成30年災害等復旧支援資金	J Aバンク新潟	豪雪、暴風、猛暑・渇水、台風により被害を受けた農業者に対し、J Aグループ新潟からの利子補給による低利の資金を創設した。	615	1,307
平成30年雪害等復旧支援資金	J A新潟みらい	降雪および暴風により被害を受けた農業者に対し、低利の資金を創設した。	8	20
平成30年産米特別対策資金、平成30年産切花特別対策資金	J A北魚沼	猛暑・渇水および台風により被害を受けた農業者に対し、低利の資金を創設した。	19	42
平成30年度 J Aしおざわ緊急農業経営支援資金	J Aしおざわ	猛暑・渇水および台風により被害を受けた農業者に対し、低利の資金を創設した。	2	2
合 計			644	1,373

(7) 経営不振農家の経営改善支援

J Aバンク新潟では、負債整理資金の対応等にあたり再生計画の策定支援や経営指導など、農業者の経営改善支援に取り組んでいます。

【平成30年度 農業者の経営改善支援等の取組実績】

(単位：先)

	期初経営改善 支援取組先 A	Aのうち再生 計画を策定し た先数 a	Aのうち期末 に債務者区分 がランクアップ した先数 b	Aのうち期末 に債務者区分 が変化しな かった先数 c	再生計画策定 率 = a / A	ランクアップ 率 = b / A	
		正常先①	17	11		17	64.7%
要 注 意 先	うちその他要注意先②	75	23	10	54	30.7%	13.3%
	うち要管理先③	9	1	1	7	11.1%	11.1%
	破綻懸念先④	32	6	2	29	18.8%	6.3%
	実質破綻先⑤	38	11	2	36	28.9%	5.3%
	破綻先⑥	0	0	0	0	—	—
	小計(②～⑥の計)	154	41	15	126	26.6%	9.7%
	合計	171	52	15	143	30.4%	8.8%

(注) 期初経営改善支援取組先および債務者区分は平成31年3月末時点のものです。

3 経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に適した資金供給手法の提供

J Aバンク新潟では、担い手の経営実態やニーズに適した資金の提供に努めています。

(1) アグリビジネス投資育成株式会社等によるファンドの活用

J Aバンク新潟では、お客さまの資金調達手段の一つとして、農業法人育成のための資本供与の仕組みである「アグリシードファンド」や「担い手経営体応援ファンド」による出資を提案しています。

平成30年度には、県内農業法人の資本調達ニーズに対応するため、「アグリシードファンド」で4先、28百万円の出資を実施し、出資総額は13先、110百万円となりました。

【農業者向けファンド取扱実績(平成31年3月末)】

(単位：先、百万円)

ファンド名	取扱実績	
	先数	出資額
アグリシードファンド	11	75
担い手経営体応援ファンド	2	35
合 計	13	110

(2) 負債整理資金による経営支援

J Aバンク新潟では、農業者の経営再建を支援するため、負債整理資金を取り扱っています。

【平成30年度 負債整理資金の貸出実績】

(単位：件、百万円)

資金名	平成30年度 実行件数	平成30年度 実行金額	平成31年3月末 残高
農家経済再建資金（負債整理資金）	2	9	1,188
畜産特別資金	0	0	55
土地改良負担金対策資金	4	124	528
農業経営負担軽減支援資金	0	0	54
農家負担軽減支援特別資金	0	0	0
その他	-	-	45
合 計	6	133	1,870

(注) 1 農業経営者負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。

2 畜産特別資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換え資金であり、J Aなどの融資期機関において取り扱っています。

4 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

J Aバンク新潟では、地域と農業者の結び付きを強化し、地域を活性化するため、また地域への社会貢献のため、次の取組みを行っています。

(1) にいがた農業応援定期貯金「ほほ笑味」の取扱い

県下 23 J Aでは、個人の方向けに、新潟県内の J A直売所や A コープ等で利用できるクーポン券を特典とした「にいがた農業応援定期貯金(ほほ笑味)」を販売しました。

なお、販売期間は平成 30 年 5 月 1 日～平成 30 年 9 月 28 日でしたが、好評により早期に募集総額に達したため、8 月 20 日をもって販売を終了しました。

クーポン券を使って、新潟県の豊かな大地で育った農作物を購入いただき、そのおいしさを実感していただくことで、J A利用者の満足度をより一層高めるとともに、県産農畜産物の消費拡大、新潟県農業のさらなる発展に貢献していきます。

(2) J Aバンク食農教育応援事業の展開

J Aバンク新潟では、将来を担う子供たちの農業や自然環境、金融経済に対する理解を促進することを目的とした「新潟県 J Aバンク食農教育応援事業」を展開しています。

主な取組みとして、J A等による子どもを対象とした食農教育活動への助成事業や、補助教材「農業とわたしたちの暮らし」(小学校高学年向け、特別支援学校生向け)の無償配布を実施しています。小学校高学年向け補助教材は県下の小学校 464 校へ 20,950 部、特別支援学校生向け補助教材は県下の小学校・特別支援学校 16 校へ 310 部を贈呈し、各学校において授業等に活用されています。

また、県下 J Aでは、下表のような食農教育にかかる様々な実践活動に取り組んでいます。

平成 30 年度においては、県内全 23 J Aが当事業を活用して食農教育活動を計画・実施しています。各 J Aが創意工夫のうえ、J A自己改革の目標の一つである「地域の活性化」の取組みとして、地域に根差した食農教育活動に力を注いでいます。

【新潟県 J Aバンク食農教育応援事業による活動内容】

J A名	活動名	活動内容
J A新潟市	農業体験作文コンクール	小中学生・特別支援学校生を対象に、農業体験学習「学校教育田」の実体験に基づいた作文コンクールを実施。
J Aかみはやし	親子でおにぎり	親子を対象に、新米や地元食材の具を使ったおにぎりづくりや米や野菜に関するクイズを実施。
J Aにいがた岩船	あぐりスクール	小学生を対象に、プランターでの大豆栽培を行い、収穫した大豆で豆腐作りを実施。
J A北蒲みなみ	出前授業	保育園・幼稚園児を対象に、「食」や「農」についての紙芝居やクイズなどを実施。
J Aささかみ	学童農園	小学生を対象に、稲作体験学習を実施。
J A北越後	稲刈り体験	園児・小学生親子を対象に稲刈り体験を実施。
J A胎内市	親子田植学習	園児・小学生親子を対象に田植え学習を実施。
J A新潟みらい	あぐりスクール	小学生を対象に、米や里芋の定植・収穫体験やトウモロコシの収穫体験を実施。

J A名	活動名	活動内容
J A新津さつき	昔ながらのお米づくり体験	園児・小学生親子を対象に、新潟市有形民俗文化財「満願寺はさ木並木」を使い、手作業で行う稲作体験を実施。
J A越後中央	農業体験スクール	園児・小学生を対象に、学校田・教育畑の農業体験学習を実施。
J A佐渡	米づくり対面	小学生を対象に、田植え・収穫体験を実施。
J A羽茂	さつまいも掘り体験	園児を対象に、地域の転作田にてさつまいも掘り体験を実施。
J Aにいがた南蒲	食農教育出前授業	園児・小学生親子を対象に、地元生産者を講師に地場農産物を学習し、収穫・販売体験などを実施。
J A越後ながおか	小学生向け料理本配布	小学生を対象に、健全な食と農を次世代につなげるため、J A独自で作成した料理本の作成し、配付。
J A越後さんとう	サマースクール	小学生を対象に、農産物の収穫体験と地場産野菜を使った調理実習を実施。
J A越後おぢや	農業体験学習出前授業	小中学生を対象に、農業体験の出前授業として野菜苗の植え付け指導を実施。
J A北魚沼	親子タウン	小学生親子を対象に、魚沼農産物の販売体験や市場での魚沼農産物の流通見学など魚沼農業を学ぶ1泊2日のツアーを実施。
J Aみなみ魚沼 (旧J Aしおざわ)	あぐりスクール	小学生を対象に、食と農の大切さを学んでもらうため、畑の作付・収穫体験、調理実習などを実施。
J Aみなみ魚沼 (旧J A魚沼みなみ)	グリーンスクール	小学生を対象に、農業体験を行い、収穫した野菜を使った調理や工作などを実施。
J A十日町	料理教室	園児・小中学生親子を対象に、地元農産物を使った料理教室を実施。
J A津南町	どろんこ学習	小中学校が行っている食農教育活動（野菜栽培学習、学校田）に対する指導を実施。
J A柏崎	野菜食育通信配布	学校給食に提供している地場産野菜について小学生とその家族に広く知ってもらうため地場産野菜のPR紙を作成し、配付。
J Aえちご上越	ちゃぐりん道場	小学生を対象に、ミニトマトの栽培・収穫体験や料理講習などを実施。
J Aひすい	大豆栽培ときな粉作り体験	小学生を対象に、大豆の栽培と収穫した大豆を使ったきな粉作り体験を実施。
J A新潟中央会	第43回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール	子供たちに稲作農業全般について学びを深めてもらうとともに、稲作農業の多面的機能とお米・ごはん食の重要性を広く周知するため、作文と図画コンクールを実施。



〈J Aかみはやし：親子でおにぎり作り〉



〈J A北越後：稲刈り体験〉

(3) 文化的・社会的貢献活動

J Aバンク新潟では、地域社会の一員として、文化、スポーツ、社会福祉、環境などの分野で幅広い地域貢献活動を展開しています。

○ 「エコ定期貯金」の受入を通じた、環境保全団体への寄付金の贈呈

J Aバンク新潟では、貯金の受入を通じてお客さまの間接的な環境保護への参加を支援することで、郷土の自然環境保護に貢献することを目的として、平成 23 年度より「エコ定期貯金」の取扱いを開始、平成 30 年度も取り組みました。

多くの皆さまから趣旨にご賛同いただいた結果、平成 30 年度は 1, 538, 905 円を公益社団法人にいがた緑の百年物語緑化推進委員会に寄付することができました。

○ 公益信託「J Aバンク新潟県信連創立 50 周年記念・ホームヘルパー支援基金」

新潟県内の社会福祉法人やボランティア団体等を助成対象者とし、ホームヘルパーの活動および当該活動を支援する設備等に対し助成を行っています。

○ 「がんの子どもを守る定期貯金」の受入を通じた、がんの子どもを守る会への寄付金の贈呈

J Aバンク新潟では、貯金の受入を通じた小児がん患者への支援を目的として、平成 29 年度より「がんの子どもを守る定期貯金（ゴールドリボン定期貯金）」を取り扱っています。

多くの皆さまから趣旨にご賛同いただいた結果、平成 30 年度は 1, 534, 954 円を公益社団法人がんの子どもを守る会に寄付することができました。

○ 環境保全への取組み

ビル内の節電対応や、「クールビズ」「ノー残業デー」の実施など、環境保全を意識した取組みを積極的に行っています。

また、J Aバンク新潟では、地球温暖化防止や、地域の森林整備等の促進、豊かな自然環境の保全を支援することを目的に、平成 28 年度からカーボン・オフセットにも取り組んでおり、「にいがた農業応援定期貯金（ほほ笑味）」のクーポン券に、調理時に排出する一食分の CO₂ 吸収量を付与することで実施しています。オフセットの手段として「トキの森クレジット」を購入し、「トキの森プロジェクト」による新潟県の森林整備を支援するとともに、人とトキが共生する地域づくりを応援しています。

※カーボン・オフセットとは暮らしの中で出てしまう CO₂ を森林整備等 CO₂ 吸収活動の支援により埋め合わせることです。



○ エコキャップ運動への参加

ペットボトルのキャップを集めて世界の子どもたちにワクチンを届ける活動に参加しています。

○「スポーツ教室・食育教室」への特別協賛

「スポーツを通じた青少年の健全育成」の趣旨に賛同し、アルビレックス新潟（サッカー）および新潟アルビレックス BB（バスケットボール）が開催する「スポーツ教室・食育教室」への特別協賛を行っています。



アルビレックス新潟による親子食育教室



新潟アルビレックス BB によるバスケットボール教室

○「松竹大歌舞伎」公演への特別協賛

地域の文化振興を応援するため、公益財団法人新潟市文化振興財団が主催する「松竹大歌舞伎」公演への特別協賛を行っています。

なお、公演には日本の伝統文化に触れる機会を提供することを目的に、新潟県内の留学生ならびに高校生を招待しており、平成 30 年度は 75 名の方からご鑑賞いただきました。

○ 役職員によるボランティア活動への参加

新潟市が主催する地域清掃活動に毎年参加し、地域とのかかわり合いを大切にしています。

また、新潟県赤十字血液センターのご協力により、団体献血を年 2 回実施しています。

○ 地域行事への参加

「新潟まつり大民謡流し」等の地域行事に地域の一員として積極的に参加し、地域の皆様との交流を大切にしています。



新潟まつり大民謡流しに参加

以 上